



# STOP! 介護崩壊 介護ウェブ2009 推進ニュース

## — 介護ウェブの “Big Wave” をおこそう! —

### 利用者・家族・地域の事業所と共同した「介護ウェブ2009」の取り組みを具体化しよう! 介護制度をたて直そう! 「2009全都ヘルパー集会」開催 「介護をよくする東京の会」主催 5月24日 76人が参加(東京)

5月24日、「2009全都ヘルパー集会」が開かれ、都内各地からヘルパーをはじめ、事業所管理者など76人が参加しました。今回は「安心・安全な介護へ—介護制度をたて直そう」をテーマに東京民医連など5団体の呼びかけで3月に結成した「介護をよくする東京の会」(「よくする会」)主催で開催しました。

まず、小野寿彦さん(足立区社会福祉協議会)から「ヘルパー制度の変化の経過と『捕らえ方』等と現在」というテーマでの学習講演。ホームヘルプ事業の変遷と、介護保険制度での訪問介護の創設、解釈と運用について、「不適切事例」など、具体的にお話いただきました。今回の介護報酬改定は通常の介護報酬の単価アップというより、介護労働の専門性と介護報酬の今後のあり方がセットされ、加算制度と資格問題を連動したことが特徴と指摘。また介護保険が私的保険制度に連動していく危険性も指摘されました。

「よくする会」事務局からの基調報告で、09年介護報酬改定や要介護認定制度変更に伴う利用者・事業者・介護労働者の困難をヘルパーの現場から発信し、2010年の介護保険制度見直しに向けて安心・安全な介護の実現のため全都的に運動をすすめることを提起し、確認されました。

続いて4人の方からの特別報告。奥様を在宅で介護されている練馬区在住の吉田紀夫さんからは「ヘルパーの支えによって認知症の妻も日々喜怒哀楽を表現し、発達していることを実感。ヘルパーの労働条件が悪くては利用者の権利は守れない。公費によって賃金引き上げを」と激励を受けました。訪問介護事業所管理者の漆原沙織さん(ファミリーケア芝)は、港区内訪問介護事業所へのアンケートから職員不足や経営困難が深刻化していること、区への介護職の処遇改善を求める運動について報告。特別養護老人ホーム管理者の西岡修さん(白十字ホーム)は、措置費の時代に比べ介護報酬が大きく引き下げられ、医療制度改悪の受け皿としての介護保険制度により社会福祉施設が「医療介護施設」へ転換させられたことを指摘し、福祉の仕事の働きがいを取りもどそうと呼びかけました。ヘルパーの森下美歩さん(ホームヘルパー全国連絡会)は、ホームヘルパーの現状について報告し、今すぐ介護報酬を抜本的に引き上げ、ヘルパー・介護職の処遇を改善し、利用者・家族がお金の心配をしないで安心して在宅介護を受けられるよう運動をすすめようと訴えました。

(東京民医連介護ウェブ2009ニュースNo.28 2009.05.27より)



### 国会議員事務所訪問&記者会見(介護に笑顔を!北海道連絡会)



「介護に笑顔を」道連絡会で、札幌市内の「国会議員事務所訪問」(5月20日)、道庁での「記者会見」(5月25日)を行いました。国会議員事務所では、介護の実態を伝える話をどこでも真剣に聞いてくれ、与党議員でも「認定方式の変更で事態は悪くなった。急いで見直しが必要」(石崎岳事務所)「地域から、何とかしてくれという声がたくさん聞こえてくる」(町村信孝事務所)という声が聞かれました。記者会見では、かりぶあつべつ石井さん・北在宅大高さん・北白石在宅対馬さんが、「4

月改定」と制度の矛盾を事例を通じて訴えました。(北海道民医連NEWS 2009.05.27より)

## 介護の危機打開へ、利用者家族・労働者・事業者の共同を！ 介護現場の実態を明らかにする市民集会に96人（介護に笑顔を！北海道連絡会）

4月改定の影響さらに10年目の迎えた介護保険制度そのものの矛盾を、実態にもとづいて明らかにしようと開かれた集会（5月30日）には、労働者、事業者、高齢者など市民あわせて96人が参加しました。

まず「ヘルパー（みなみヘルパーステーション鎌田頼子さん）」「利用者家族（池内省子さん）」「認定審査委員（猫塚義夫さん）」、各分野から3人の方が実態を告発する発言を行いました。自らが「要支援2」で、「要介護5」の母親の介護にあたっている池内省子さん（西区在住）は、「地域包括支援センターの人に『どんなことをしてほしいですか』と聞かれたから、自分が目も足腰も不自由なので『買い物に行ってほしい』といったら『それはできない。他には何をしてほしい』『通院につきそってほしい』『それはできない。他には』『食事の準備を手伝ってほしい』『それはできない』。私は支援が必要だから「要支援」となっているのに、何も支援してもらえない。母親も長期に入院できる「老人病院」に入ったが、職員が忙しい・少なくて、ほとんど手をかけてもらえない。人間らしい介護のは、職員が人間らしい労働条件を保障されていないといけませんね」と実感を込めて述べました。



自分が目も足腰も不自由なので『買い物に行ってほしい』といったら『それはできない。他には何をしてほしい』『通院につきそってほしい』『それはできない。他には』『食事の準備を手伝ってほしい』『それはできない』。私は支援が必要だから「要支援」となっているのに、何も支援してもらえない。母親も長期に入院できる「老人病院」に入ったが、職員が忙しい・少なくて、ほとんど手をかけてもらえない。人間らしい介護のは、職員が人間らしい労働条件を保障されていないといけませんね」と実感を込めて述べました。

### 8割が「この改定では2万円増は不可能」

川村雅則さん（北海学園大学准教授）は介護報酬改定の効果があったかどうかの調査を行い、78施設から得た回答について報告しました。「そもそも改定率が3%に達している施設が少ない。特に札幌以外では約7割が達していない。自由回答では『常に人材不足に悩む施設では、今回の加算では該当する項目がない』。そして『2万円増は実現したか』の問いに、8割以上が『まったく実現不可能』と回答しています。『今だけが苦しいのか？今後も同様なのか、先が見えず、労使とも不安定でよいのだろうか、疑問を感じる』『介護報酬をアップするのではなく、国が人件費相当分を直接補助すべきだ』などの声が象徴的」と紹介しました。4人の発言に続いて講演を行った日下部雅喜さん（大阪社保協）は、「介護保険10年目にして介護の危機が深まっている。介護保険制度の限界が大きく、利用者家族・労働者・事業者が共同して、制度の枠にとらわれない政策要求を求めていくべき」と強調しました。

### 介護問題を総選挙の争点へ

閉会あいさつで、土岐福祉保育労書記長は「昨年4月からのとりくみで、介護職員の劣悪な労働条件が社会問題にまで発展して成果に結びついている。このとりくみをさらにすすめて制度改善をかちとろう。そのためにも来る総選挙で介護問題が大きな争点となるように、署名にとりくんで、世論を広げよう」と呼びかけました。（介護に笑顔を！北海道連絡会ニュース No.19 2009.06.01 より）

### 【事務局短信】「要介護認定制度2009ハンドブック」完成！（定価250円）

従来の「主治医意見書の書き方マニュアル」を全面改定した「要介護認定制度 2009ハンドブック～多職種連携で作る主治医意見書～」が完成しました。注文は（株）保健医療研究所まで。「注文票」は本日、都道府県連にお送りします。



### 交流会の各種資料をHPに掲載しました！

5月28日～29日に開催した、「09年報酬改定・新要介護認定制度・事業整備たたかいと対応交流会」の当日配布資料、講演等のパワーポイントデータをHPに掲載しました。

■ 掲載場所（全日本民医連HP>会員のページ>介護・福祉部>全国会議報告・資料）

お問い合わせは、「介護ウェブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp